

国立科学博物館「ワニ展」「大絶滅展（3回目）」のお話^{はなし}

雪^{ゆき}が降^ふったと思^{おも}ったら急^{きゅう}に暖^{あた}くなるなど、気^き温^{おん}の変^{へん}化^かが激^{げき}しくなると、季^き節^{せつ}の変^かわり目^めを感じ^{かん}じますね。あ^いん Do^{ちか}の家^{いえ}の近^{ちか}くでも、ウメ^{はな}の花^{はな}が2^{りん}、3^さ輪^さ咲^きいていました。暦^{こよみ}の上^{うへ}でも立^{りっしゆん}春^すを過^すぎ、春^{しゆんぶん}分^{ぶん}まであと1^{げつ}ヶ月^{げつ}ちよつとになっ^いています。春^{はる}もすぐそこ、だ^よと良^よいですね。

さて、2/15（日）に、今^{ことし}年の卒^{そつぎょうせい}業^{ふく}生^{ゆうし}を含^{だい}む有^{ぜつめつてん}志^いと「大^{だい}絶^{ぜつめつてん}滅^{てん}展^い」に行^いってきま^いした。終^{しゅうりよう}了^{りよう}まで1^{しゅうかん}週^{かん}間^{かん}、と^{ぜん}い^{かい}うタイ^{がつ}ミン^{がつ}グだ^{がつ}った^{がつ}せ^{がつ}いか、前^{ぜん}回^{かい}（12^{がつ}月）と^はは^はう^はって^はか^はわ^はって^はす^はご^はい^は人^{にん}出^でで、9^じ時^しに集^{しゅうごう}合^{ごう}した^{とき}時^{とき}には^すず^すで^すに^すう^すひ^すゃ^すく^すに^すん^すなら^{なら}い^いる、と^{じょう}い^{じょう}う^{じょう}た^{じょう}い^{じょう}で^{じょう}した。卒^{そつぎょうせい}業^{せい}生^{せい}の^{のみ}み^{のみ}な^{のみ}さん^{のみ}は^{のみ}ひ^{のみ}さ^{のみ}し^{のみ}ぶ^{のみ}り^{のみ}の^{のみ}科^{のみ}博^{のみ}と^{のみ}い^{のみ}う^{のみ}こ^{のみ}と^{のみ}で^{のみ}、^{のみ}お^{のみ}も^{のみ}思^{のみ}っ^{のみ}た^{のみ}よ^{のみ}り^{のみ}た^{のみ}く^{のみ}さ^{のみ}ん^{のみ}の^{のみ}人^{のみ}が^{のみ}来^{のみ}て^{のみ}く^{のみ}れ^{のみ}ま^{のみ}し^{のみ}た。す^{のみ}ぐ^{のみ}に^{のみ}入^{のみ}れ^{のみ}な^{のみ}か^{のみ}つ^{のみ}た^{のみ}せ^{のみ}い^{のみ}で^{のみ}、途^{のみ}中^{のみ}で^{のみ}か^{のみ}え^{のみ}帰^{のみ}ら^{のみ}な^{のみ}け^{のみ}れ^{のみ}ば^{のみ}な^{のみ}ら^{のみ}な^{のみ}く^{のみ}な^{のみ}つ^{のみ}て^{のみ}し^{のみ}ま^{のみ}つ^{のみ}た^{のみ}人^{のみ}が^{のみ}い^{のみ}た^{のみ}の^{のみ}は^{のみ}ざ^{のみ}ん^{のみ}ね^{のみ}ん^{のみ}で^{のみ}した^{のみ}ね。



とくべつてん はい せいりけん じかん じかんはん きかく
特別展に入るための整理券の時間まで1時間半ほどあいてしまったので、企画
てん てん み せなか かわ か ほね ご
展の「ワニ展」を見にいきました。ワニの背中の皮の下にある骨や、ビニール越
しにワニの ひょうほん さわ とうぶつえん えん い
しにワニの標本に触ることができるなど、動物園やワニ園の生きたワニとはま
ちが たいけん げんざい ちきゅう せんざい ちゅうるい なか
た違ったふれあい(?)体験ができました。現在の地球に存在するは虫類の中
では もっと とり ちか しんか からだ かいせつ
で最も鳥に近いグループであるワニの進化や、体のつくりについての解説
が み ところだ おも こっかくひょうほん かせき せい じゅうじつ ず
が見どころだと思います。骨格標本や化石、はく製も充実していて、ワニ好き
でなくても たの み てんじ
楽しく見られる展示になっていましたので、まだ見ていない、という
ひと い
人は行ってみてはいかがでしょうか。



ほんめい だいぜつめつてん ほう こ かいめ てんじ み
本命の「大絶滅展」の方はやはり混んでいて、3回目のあん Do は展示を見る
よりも はな おお じかん つか れつ うご おそ てんじ
話すほうに多めの時間を使っていました。列の動きも遅く、展示ケースの
なか ひとつひとつ ゆっくり みて 回る のは 少し 難 しかったのですが、 てんじ おお
中を1つ1つゆっくり見て回るのは少し難しかったのですが、展示パネルや大
がた ひょうほん み
型の標本はやはり見ごたえがありました。

こんかい だいぜつめつてん とくべつてん くら
今回の大絶滅展は、いつもの特別展に比べ

ないよう むずか りかい ぜんてい
るとやや内容が難しく、理解の前提となる

ちしき おお てんじ おも さんか
知識も多めの展示だな、と思いました。参加

しゃ なか よ かお
者の中にも「良くわからない」という顔をし

ながら見ていた人もいたようです。しかし、

かなら ふか りかい
必ずしも深いところまで理解しなくても、

わからないなりにこのような題材について

たの まな きかい じゅうぶん すぐ
楽しく学べる機会としては十分に優れてい

ると思います。「わかるところだけでも楽しむ」と考えて、どんどんチャレンジ
してもらえたらうれしいです。

つぎ ちよう きけんせいぶつてん はるやす こんざつ がつ はい
次は3/14からの「超危険生物展」です。春休みの混雑はさけて、4月に入っ

てから行きたいと思っています。みなさんの参加も楽しみにしていますね。

26/2/18 (化石発掘ツアーもやってみたい) あん Do



次回：超危険生物展のHP（予習用）

<https://chokikenseibutsuten.jp/>

